

NIKKO 50th

ありがとうの **わ** を未来へつなぐ 50年の物語

anniversary story



目次

創業者・有吉旦と事業の始まり ・ 4

NIKKOの婚礼 ・ 8

NIKKOの葬祭 ・ 14

NIKKOの観光・余暇 ・ 20

沿革 ・ 28

概要 ・ 30

NIKKOの未来図 ・ 32

1963(昭和38)年12月、私どもNIKKOグループの母体である株式会社日興商事が長野市鶴賀緑町に誕生して、今年で50年目を迎えることができました。

この50年間に、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しました。生活が豊かになる反面、核家族化・少子高齢化が進み、ネットによる交流が、現実の人間と人間との触れ合いを希薄化させつつあります。私たちは、先の東日本大震災を経験し、改めて家族の絆の大切さを痛感いたしました。ここに、私どもは50周年の節目を迎えるにあたり、相互扶助を旨とする互助会の基本精神に立ち返り、地域の皆様の「ありがとうの輪(和)」を少しでも繋げていける集団となるよう努力して参ります。

私たちは、皆様の大切な想いを「まごころ込めてお手伝い」させていただき、地元の皆様に親しまれる企業を目指して参りますので、皆様方の温かいご支援を、心からお願い申し上げます。



NIKKOグループ CEO
有吉 眞

50th anniversary story

ありがとうのわを

未来へつなぐ50年の物語

1963（昭和38）年、長野市鶴賀緑町に株式会社日興商事を創設。
その後、住宅地図出版事業での全国展開を遂げた創業者・有吉旦は、
「地域社会に還元奉仕」の思いを起業当初から抱きつづけ、
1973（昭和48）年に互助会事業に着手する。
2009（平成21）年、有吉眞がその精神を受け継ぎ代表に就任。
地域とともに歩んだ、NIKKOグループ50年の歴史を振り返る。

日興商事設立当初の有吉旦
（左上）と家族。旦に抱えら
れているのが、長男で現グ
ループ代表の有吉眞

創業者・有吉且と事業の始まり

有吉家と有吉且

昭和2年2月22日、有吉且(ありよしやすし)は長野市南石堂町で誕生した。父・一夫の出身は山口県萩市。萩は日本の学問発祥の地、また数多くの政治家を輩出している地であり、吉田松陰の私塾であった松下村塾は有吉邸と敷地が隣り合わせにあった。

父・一夫は第一銀行役員を勤めたのち、萩市をあとに、妻(且の母)・蓮の実家である長野市へと移り住んだ。夫婦ともにクリスチャンであった。子どもたちが成人した昭和28年、一夫は上田市菅平で宗教学法人マリヤ社会福祉協会を設立。また、同年に蓮は長野県

初の女医として、長野駅前久保田眼科を開業するに至った。

それに先立つ昭和19年、日本大法学部に入學した且は「学徒出陣・予科練」に入隊。特攻隊員として名乗りをあげて死を覚悟するも、やがて終戦となり大学に復帰する。在学中には現役弁護士秘書をつとめ、「有吉君、世の中に頭のいいやつは沢山いる。腕つぶしの強い輩も沢山いる。しかし、君のように頭脳明晰でかつ度胸と腕つぶしの強さを備えている輩はあまりいない。つくづく恐れている」と、その能力を高く買われていた。卒業後は緑屋(クレディセゾンの前身である月賦百貨店)に就職するも、人に使われることに限界

を感じ、数ヶ月で退社。東京での奮闘が数年つづいた後に帰郷を決意。父が設立したマリヤ社会福祉協会にて、出所者の更生を働きかける仕事を手伝うことに。冬場は協会を「マリヤ荘」として一般開放し、宿泊・食事の提供をしていたことから、この頃に且は調理師免許を取得した。

日興商事の始まり

昭和35年、且は日興商事の前身となる有限会社日本興業不動産協会を設立。長野での仕事を諦めて再び東京に戻ろうとしていた且だったが、母・蓮に「長野でまいた種は長野で刈り取りなさい。あんな男でしよ」と引き止められ、

現・ホテル日興の敷地が且に預けられることになった。りんご箱を机にして電話1台で創業。不動産業のほかに居酒屋会館の運営にあたり、自ら店舗経営に奮闘した。

しかし、経営は行き詰まり、自宅も店も電気を止められるまで困窮していた。「自宅は止めてもらってもいいが、店の電気だけは待っ

てほしい」と懇願したところ、電力会社の担当者は止めないでいてくれたという。困ったときほど人の心が分かるものだと感じた且は、この時の「恩返し」として、のちに社内に理容部門を設け、生活保護家庭等を対象にした「無料理髪」を行う。

昭和37年、有限会社日地刊行会という住宅地図の出版社を吸収合併し、住宅地図出版販売に着手。「株式会社日興出版社」と社名を改める。高度経済成長の追い風に乗り、不動産業・出版事業が少しずつ軌道に乗り始めた。同時に、「世のため、人のためになりたい」「地域社会に大きく還元したい」と、起業人としての心の確立を見つけた時でもある。

住宅地図出版で全国へ

昭和38年、建設事業を開始した

のちに、株式会社日興商事を長野市緑町に創設する。出版部・不動産部・建設部・車両部で構成される商事会社の誕生である。

その後、昭和40年から41年の間に、出版事業は全国展開をめざし順調に拡大していく。長野県・群馬県・埼玉県・栃木県・新潟県に一部の著作権を登録。高崎市に群馬支店、大宮市に埼玉支店を設け、続いて前橋営業所・松本営業所を開設した。

一方、不動産・建設事業では、昭和42年、東京江戸川区に支店を設立する。その後、東洋綿花株式会社の特約店として、また日本鋼管直系会社エヌ・ケー・ブレハブ株式会社長野県総代理店として、エヌ・ケー・ホームの建設に着手する。

ちなみに不動産業において長野市内では、昭和40年に裾花川沿い



(1・2) 日興商事が手掛けた住宅地図。
(3) 菅平マリヤ荘の前で且の子どもたち



(4) 日興グループ創設初期。(5) 有限会社日野定造花店を吸収して互助会設立へ



有吉且(1927-2009)「死ぬときまで仕事師」の言葉通り、81歳のとき病で亡くなる前日まで仕事の指示を出していた。乗馬、歌、毛筆、社交ダンス等、多芸だった

■有吉且の三戒一心
一、反省 自分をふりかえってよく考えてみること
一、努力 力を尽くして励むこと
一、我慢 苦しいことや辛いことをこらえること
克己心 自分の欲望や悪い心に打ち勝つところ

■有吉且語録
「営業は技術だ、職人だ」
「人生自ら蘇生」
「社員皆の給料は俺が出しているんじゃない、お客様からいただいているのだ」
「俺は小鳥や虫が大好きだ。嘘をつかないし、生き様が正直だ」
「時は金なり、は嘘。金は取り返せるが、時間は取り返せない」

の善光寺白馬電鉄跡地の約1kmを開発。鉄道敷地を道路に変換し、のちに日興グループ本社社屋、結婚式場「百景苑」、「榎花峡天然温泉宿うるおい館」がこの沿線に建てられることになる。(道路は平成23年に長野市へ寄贈)

昭和45年以降、住宅地図出版事業はさらに拡大し、新潟県長岡市、青森県青森市、東京都江戸川区、山形県山形市、福島県郡山市、北海道函館市、富山県富山市、石川

日興商事の住宅地図著作権登録・販売権取得 (昭和37年~昭和55年)

■登録都道府県
長野県・群馬県・埼玉県・栃木県・新潟県・北海道・東京都

■支店・営業所
群馬支店・埼玉支店・前橋営業所・松本営業所・長岡支店・青森支店・江戸川支店・山形支店・秋田支店・郡山支店・函館支店・福島支店・富山支店・金沢支店・八戸支店・旭川支店・室蘭営業所

仕はこれだ！」とひらめいたという。

昭和48年、長野市最大の有限会社日野定造花店を吸収合併し、新たに慶弔部門を立ち上げた。翌49年、日興商事内に長野県生活互助会部を設立すると同時に、社団法人全日本冠婚葬祭互助協会正会員・日本冠婚葬祭新生活推進連合会正会員に加盟した。昭和52年、長野県生活互助会部を日興商事より独立し、互助会業務一切を継承し、株式会社長野県生活互助会を設立。開業に先がけ、生活事情等により結婚式をあげられなかった方々のために、無料の合同結婚式を開催。時の人、倉島至氏を媒酌人に、10数組の応募があった。

昭和53年、名称を改め株式会社日本生活互助会が誕生した(通商産業大臣許可互第3104号を取得)。

県金沢市に支店を開設。さらに、昭和47年には株式会社日興商事が資本を導入して新たに株式会社日興印刷を設立。印刷も自社でまかなうと同時に、日興グループとしての事業展開を開始する。長野市南県町の長野労働金庫本社屋跡を購入し、日興グループの総本社とした。

また同年、出版事業拡大のため、東京支店を千代田区水道橋駅前に進出させ千代田支店とする。全国住宅地図総販売元として、住宅地図販売センターを併設した。

翌48年、出版部門では東京都住宅地図一括販売をはかるため、ゼンリン出版社と契約、販売権を得た。さらに同年、北海道全域の住宅地図出版事業に乗り出し、旭川に支店を、室蘭に営業所を新設する。日興グループにおける出版事業の全盛期であり、全国的に

一方で、住宅出版事業はゼンリン出版社との著作権取得争いが激化。両社トップが話し合い、日興商事が所有する全著作権をゼンリン出版社に譲渡販売することで決着がついた。

「ホテル日興」「百景苑」「市民葬祭センター」誕生

昭和50年、日興グループ新事業進出のために、長野市緑町の旧本社跡に、地下1階、地上11階のホテル日興ビル建設に着手する。翌51年ホテル日興オープン。長野駅近くのビジネス、観光の新たな拠点として注目を集めた。

続く昭和52年、互助会会員の結婚式が年間200件を超えるようになり、長野市妻科に専門結婚式場「百景苑」を建設する。オーブンディングイベントとして、豪華審査員による「長野県ミス花嫁コン

は「北の日興商事、南のゼンリン出版社(本社/福岡県北九州市)」と言われるまでに成長し、両社で勢力争いを続けていた。

日本生活互助会設立

住宅地図出版事業が拡充をつづける一方で、日興グループは互助会事業に着手する。きっかけは、グループ代表の有吉且が、新潟県で行われた支店社員の葬儀に出席したことだった。新潟県は全国的にも早くから互助会事業を取り入れており、参列した葬儀の施行は偶然にも互助会のものであった。参列者にはおしぼりが供され、至れり尽くせりのサービスがなされた。さらに、出棺のときには白いハトが飛び立つ等の「演出」が、それまでに見たことも聞いたこともない葬儀を体験し、深い感銘を受けた且は「地域社会への還元奉

テスト」を長野市民会館で開催。1000人にのぼる観客が集った。

豊かな自然に恵まれた百景苑は、当時の他の結婚式場と比較して、駅から遠いことが難点であった。しかし、逆転の発想である。車社会を予見していた且は駐車場完備にこだわり、新郎新婦の自宅から式場までマイクロバスで無料送迎を行うなど、それまでになかったサービスを展開。また、一人ひとりのお客様に寄り添ったおもてなしを徹底し、年間約300組の挙式がここで行われた。

そして昭和59年、長野市の国道沿いに長野県内で初めての葬祭式場「長野市民葬祭センター」(現南安楽院)の建設に至る。

専門結婚式場に続いて専門葬祭式場が完成したことにより、今日に至る株式会社日本生活互助会の基盤が確立した。



6



7

(6) 昭和51年、新事業としてホテル日興を設立。(7)昭和52年、専門結婚式場「百景苑」を設立。「この地において他にない」と有吉且の新築自宅をわずか3年で解体し建設された



8



9

(8) 百景苑開設時に開催した「長野県ミス花嫁コンテスト」
(9) 「無料合同結婚式」



10

(10) 長野市民葬祭センター (11) 昭和57年長野市南長野に互助センタービルを建設



11

株式会社日本生活互助会
テラスグランツ
うるおい友の会
株式会社エーアイエム
株式会社フラワーステージなの



ジョイベル教会

互助会事業に着手したNIKKOグループは1977(昭和52)年、長野市妻科に会員のための専門結婚式場「百景苑」を設立。長野市街地にありながら、裾花川・旭山の美しい四季の景観を誇る式場は、県下最長のパーズンロードをもつジョイベル教会と、200名収容の披露宴会場・樹樹ホールを併設し、毎年300ほどの挙式がここで執り行われました。お客様一人ひとりに寄り添い、常に「お客様と同じ目線」を意識したサービスはその後、グループの葬祭事業にも引き継がれていきます。

2010(平成22)年、新しい時代の挙式のあり方にこたえるべく、百景苑本館敷地跡に「リバーフロントスクエア・テラスグランツ」が誕生。豊かな自然を満喫していただけるよう建物の細部にこだわり、そして1組1組に集中してサービスを提供できる貸切型の結婚式場に生まれ変わりました。

2011(平成23)年に樹樹ホールを、2012(平成24)年に教会をリニューアル、2014(平成26)年には、少人数会場「MIZUKI」を全面リニューアルし、歴史ある式場ならではのサービスで、より一層の進化をめざします。

婚礼部門のこれまで、そして今

NIKKOの婚礼

in the past

—NIKKOの婚礼— 記憶に残るトピックス

昭和52年建設の結婚式場「百景苑」にはじまり、
現在の「テラスグランツ」まで。婚礼事業の個々のサービスに
グループの50年の思いが込められている。

1 新築自宅を解体して百景苑設立

互助会事業が軌道に乗りはじめた昭和52年、
結婚式場「百景苑」をオープン。場所は、長
野市妻科。県庁西側のこの土地は、創業者・
有吉且が自宅を新築した場所だった。建築雑
誌にも何度か紹介された豪華な邸宅を、わず
か3年で解体。「結婚式場はこの地において
ほかにない」とは有吉且自身の談。替わって
建てられた「百景苑」は、背後に迫る裾花川
と旭山の四季の景観がことのほか美しく、数
多くのカップルを魅了した。



2 ミス花嫁コンテスト開催

昭和52年7月、百景苑の完成を記念して「第
1回長野県ミス花嫁コンテスト」を開催。長
野市民会館を会場に、1000人にのぼる観客
が集った。歌手のフランク永井、アイジョー
ジ、戸川昌子、漫談家・政治家のコロムビア
トップ、柳原正之長野市長ら、錚々たるメン
バーが審査員をつとめた。「あゆみの箱基金」
への募金が開催の目的のひとつでもあり、参
加者より集められた募金はその場で基金理事
のコロムビアトップに寄贈された。



6

百景苑からテラスグランツへ

かつて「家と家」のものだった結婚式が、時代の移り変わり
とともに「新郎新婦の思い」を形にするものへと変わっていく。
平成22年、百景苑を貸切型結婚式場「テラスグランツ」とし
て全面リニューアル。会場のどこからも四季の自然が感じら
れるよう、建物の細部にこだわり、綿密な打ち合わせを重ね
ることで、ゲストが幸せになれるような結婚式づくりを目指
している。平成26年、1階披露宴会場「MIZUKI」も全面リ
ニューアル予定。



樹樹ホール



百景苑

5

樹樹ホール誕生



平成9年、百景苑に隣接してゲスト200名
収容の「樹樹ホール」が誕生した。自然に包
まれた百景苑の特色を生かすべく、木々のぬ
くもりを全面に打ち出し、木立の中に建つ別
荘を思わせる造りに。樹樹ホールの併設によ
り、年間300組近くの挙式がここで執り行わ
れた。その後の平成22年、百景苑が「テラ
スグランツ」へとリニューアルした際も、樹
樹ホールの外観はそのまま、名称も大ホール
の会場名として残された。



テラスグランツ

県下随一のジョイベル教会

平成元年、百景苑敷地内に「ジョイベル教会」が建ち、県下
最長のパーজনロードを持つ教会として話題を呼んだ。運営
にあたったのは、有吉且の父・一夫が創設した、宗教法人マ
リヤ社会福祉協会。熱心なクリスチャンであった一夫は、「キ
リストの愛が近代文明の原点」という考えのもと、上田市菅
平を拠点に宗派を問わず困窮する人々をサポートする活動を
行っていた。一夫の精神が今もジョイベル教会に形として残
されている。

4



3

花嫁センターのこと

「百景苑」設立の後、長野市南県町の労働金
庫本社屋跡に「花嫁センター」を開設した。
ウェディングドレスのレンタルを行うほか、
「良縁センター」にて結婚相談サービスを行っ
ていた。1階ではワコールの専門店「ワコ
ールショップうらおい」を運営。高級ラインの
ランジェリー、ナイティー、アウター、ファン
デーション等を扱い、毎年正月には顧客
一人ひとりのサイズや好みに合わせた「あな
ただけの福袋」を販売し、好評を得た。



「もう一度つながる。」

ごく最近のことです。ご両親と長い間確執があった新婦様がいらっしゃいました。結婚の報告にも「あら、そう」と言うだけでも式には「とりあえず形だけでも」と参加する。そんな関係です。しかし、新婦様は「もう一度ひとつの家族になりたい」という気持ちをお持ちでしたので、「ご両親に手紙で新婦様の真心を贈りましょう」と、ご提案させていただきました。式当日、新婦様は、ご両親へ自分の気持ちを伝えました。「今までには仲の良い親子ではありませんでしたが、実は、関係を修復したいとずっと考えていました」と。結婚式でネガティブなエピソードを披露するのは勇気がいることです。でも、皆さんがいる場所だからこそ、娘の本心を聞けたことが、ご両親にとって最良のサプライズだったようです。式が終わった

た時、親子で抱き合って泣き、「いい披露宴だった」と言っていたきました。また、新郎様と意見が合わなくて衝突したこともありましたが、それを一緒に乗り越えていくことで、最後には「ここでやつて良かったね」という言葉をいただきました。式の当日、新郎新婦様が本当にキラキラと輝いていたのは、お互いを思いやれる家族になれたからだと思います。家族がひとつになれる結婚式は一生の思い出を残してくれそうです。それ以上に大事なものは無いのではないのでしょうか。

常に考えていることは、「どうすればその人に喜んでもらえるか」ということです。それがあからこそ、演出一つひとつに意味が出てくるのです。もちろん、お客様のご希望を一番大切にしますが、それにヒントを提供し、感謝

の気持ちを形に表し、おもてなしするのがプランナーです。最近のお客様は、「式に参加する皆さんが楽しく幸せになってほしい」と願う温かさを持っているので、参加する皆さんもサービスする私たちも、お互いにすばらしい感動がシェアできるのだと思います。これから「感謝」をテーマに、歴史ある式場らしい心くばりですポートに努めてまいります。



株式会社日本生活互助会
テラスグランツ支配人
西木勝彦



株式会社日本生活互助会
安楽院
ライフステージみちるべ
うるおい友の会
株式会社エーアイエム
株式会社フラワーステージながの



南安楽院（リニューアル前の外観）

結婚式場・百景苑の設立から7年後の1984（昭和59）年。

NIKKOグループは長野市の旧国道18号沿いに

「長野市民葬祭センター」（現・南安楽院）を建設し、葬祭事業の地歩を確立しました。
長野県初の「葬祭式場」の誕生です。

開業から半年後には予約が殺到するまでの反響を得て、

その後、市内では他社が運営する葬祭専門式場が続々と建設に至りました。

1994（平成6）年、長野市七瀬に葬祭セレモニーホール「中央安楽院」を設立。

以降順次、「須高安楽院」「中野安楽院」「桐原安楽院」をオープンし、

2012（平成24）年設立の「朝陽安楽院」は、直葬にも対応できる

安置室や家族葬ルームを完備するなど、時代のニーズに応じてきました。

一方、人生の最期を自分らしく迎えるための「終活」が広く世間の注目を集め、

2009（平成21）年には終活情報サロン「ライフステージみちるべ」を開設。

2014（平成26）年、家族葬の需要の高まりを受け、長野市および須坂市に、

初の貸切型家族葬ホール「紫苑」を開業いたします。

葬祭部門のこれまで、そして今

NIKKOの葬祭



環境に配慮した 「朝陽安楽院」建設

平成24年10月、6施設目の葬祭式場となる「朝陽安楽院」が長野市朝陽にオープンした。直葬にも対応できる安置室や1階・2階にはリビング葬のできる家族葬ルームを設置。全館バリアフリーで、車椅子専用駐車場・車椅子用お手洗いを完備している。また、NIKKOグループのCSRの取り組みとして、新たに太陽光発電を取り入れている。新しい時代に応える未来型の葬祭式場として話題を集めている。



5 運輸部門、 生花部門が独立

平成24年、安楽院やテラスグランツ等、NIKKOグループ各施設を利用する際の貸切バス事業（一般貸切旅客自動車運送事業 北信交旅第381号）が本社より独立する。また同年、冠婚葬祭の生花部門も独立し、それぞれ「株式会社エーアイエム」「株式会社フラワーステージながの」として事業を開始した。両社とも、NIKKOグループの婚礼部門、葬祭部門における「おもてなしの心」を底辺で支える事業として、人材育成をはじめ、さらなるサービスの向上につとめている。

in the past

—NIKKOの葬祭— 記憶に残るトピックス

長野市を中心に、須坂市・中野市で現在6施設の安楽院を運営。
市内初の葬祭式場の誕生から30年、家族のあり方とともに
求められる葬儀のあり方も変容を遂げてきた。

6



桐原安楽院



中野安楽院



中央安楽院



南安楽院



朝陽安楽院



須高安楽院

4

終活のはじまり

平成20年頃から、人生の最期を迎えるための「終活」が多くなる。この流れを受け、残される家族に負担のないよう、自分流の葬儀方法や相続について相談できる場として、平成21年に終活情報サロン「ライフステージみちるべ」の開設に至った。法律セミナー等を随時開催し、互助会員のみならず地域住民からも親しまれるようになる。



昭和59年、「長野市民葬祭センター（現・南安楽院）」を設立。長野県初の「葬祭式場」が誕生した。それまでは自宅での葬儀が「慣例」として根付いており、運営していけるかどうか社内でも不安の声が。しかし、親戚・隣近所が協力し合うことで成り立っていた自宅の葬儀は、高度経済成長期を経て困難を極め、葬祭式場の需要が急速に高まっていく。結婚式場「百景苑」で培われたホスピタリティが葬祭事業にも生かされ、故人と家族に寄り添ったサービスが広く市民に受け入れられるようになった。

長野県初の葬祭式場オープン



1



2

葬祭式場をホテル併設に

南安楽院の誕生から10年。第2の安楽院設立に向けての準備が始まった。コンセプトは、「宿泊にも対応できる葬祭式場」。地元を離れた親戚が多くなった時代に、遠方からも通夜・葬儀に安心して参列できるようにと、ホテル併設の「中央安楽院」が長野駅近くに設立された。それまで、通夜は自宅、葬儀は葬祭式場と使い分ける家庭が多い中で、通夜室が完備された中央安楽院の登場により、通夜・葬儀ともに葬祭式場の利用が増加していく。



3

葬儀の多様化

葬祭式場の利用が普及していくなか、少子高齢化や日本経済の低迷とともに、求められる葬儀のあり方もさまざまに変容していった。日本生活互助会では、「中央安楽院」（平成6年設立）に引き続き、「須高安楽院」（平成11年）、「中野安楽院」（平成12年）、「桐原安楽院」（平成18年）を設立。それぞれの施設では大規模な葬儀も行われる一方で、身内だけで通夜・葬儀とも執り行う「家族葬」の需要も高まっていった。

「祭壇を花壇に。」

須高安楽院での7、8年前のことです。20代の娘さんが中心になって、40代という若さで亡くなられたお母様の葬儀を行ったことがありました。最初、娘さんは途方に暮れている様子でした。お父様には持病がありで、高校生の妹さんや自分の将来のこともある。「これからどうしていったらいいのだろう」という不安でいっぱいのお気持ちですが、すごく伝わってきました。

私たちの務めは、ご遺族のお気持ちの深さを汲みとり、力になって支えることです。精神的に極限の時であるからこそ、亡くなられた方とご遺族との関係を敏感に読みとらなければいけません。変な話ですが、こういう気持ちで仕事に向き合っていると、お参りを済ませたあと、自然と亡くなられた方の「声」が聞こえてきます。こ

の時は、故人がすばらしいお母様であったことが伝わってきました。ご遺族のご希望は、「お花で飾ってあげたい」ということでした。その思いを汲んで何とか表現してあげたいと、ご自宅にうかがってお母様の作った花壇を拜見して……。とにかく一生懸命にやらせていただきました。

葬儀では、故人が大好きだったパンジーの花を中心に、祭壇の脇に3、4段の花壇を設えさせていただきます、サプライズとして、故人が愛飲されていた地元の蔵元のにがり酒をご霊前にお供えもしました。お斎の席でもこの日本酒を用意し、みなさまに飲んでいただきましたところ、ご家族はじめ親戚の方も大変喜んでくださいました。これは特別なことではなく、当たり前のこととしてやらせていただいたことなのですが、最後に

は娘さんから、「お母さんらしい葬儀ができました」と、心から感謝していただきました。

私どもは、これからも亡くなられた方とご遺族にしっかりと向き合って、その想いを察し、尊重することを大切にしていきたいです。故人を思うご遺族が、「この人のためにこんなことができた」と感謝してくださる時、自分の仕事をまっとうできた、と思います。



株式会社日本生活互助会
安楽院統括館長
丸山道夫





裾花峡天然温泉宿うるおい館（白岩の湯）

株式会社日興商事
ホテル日興
裾花峡天然温泉宿うるおい館

1975（昭和50）年、NIKKOグループは新事業進出のために、長野市緑町の旧日興商事本社跡に、地下1階地上11階のホテル日興ビルの建設に着手しました。翌年、「ホテル日興」を開業。以来、長野駅近くのビジネスや観光の拠点として、またスポーツ選手の合宿拠点として運営してきました。今年で38年目を迎え、NIKKOグループの中でも長い歴史に支えられたホテルとして、温かく家庭的なサービスを心がけています。一方、ホテル日興および冠婚葬祭事業で培ったサービスを「憩いの場」づくりに生かすため、2002（平成14）年、長野市妻科の本社社屋近くに「裾花峡天然温泉宿うるおい館」を開業。源泉掛け流しの大露天風呂を有する日帰り温泉施設・宿泊施設として、年間30万人以上のお客様をお迎えしています。さらなる癒しと心地よさをご提供できるよう、両施設ともお客様との「二期一会」を大切にしていきます。

NIKKOの観光・余暇

観光部門のこれまで、そして今

源泉発見!

平成12年4月、長野市妻科所有地にて源泉発掘を開始。ホテル日興をはじめ冠婚葬祭事業で培ったサービスを、地域の皆様の憩いの場づくりに生かすべく、平成13年に「温泉施設」の建設に着手する。見事、こんこんと湧く天然良質温泉を掘り当て、平成14年4月、百景苑(現テラスグランツ)と隣り合わせの地に「裾花峡天然温泉宿うるおい館」が誕生。源泉掛け流しの大露天風呂を求め、毎年30万人超の利用をいただく施設へと成長していった。



4 [うるおい館]

ホテル設立当初のこと

1
【ホテル日興】

昭和50年、新事業進出をめざして、長野市緑町の旧日興商事本社跡に、地下1階・地上11階のホテル日興ビルの建設に着手する。翌51年、「ホテル日興」がオープン。客室72室・114名収容のゆったりとした空間は、「人間性回復とやすらぎ」がテーマ。長野駅近くの新しいビジネス・観光の拠点として注目を集めた。設立当初から部屋ごとに「オーナー制度」が採用されており、オーナーや常連顧客には「マイスリッパ」が提供されるというサービスも。



in the past

—NIKKOの観光・余暇— 記憶に残るトピックス

グループの施設の中でも長い歴史をもつ「ホテル日興」と、
設立10年を迎えた「裾花峡天然温泉宿うるおい館」。
地域に支えられた「憩いの場」づくりとは。



ホテル日興

裾花峡天然温泉宿うるおい館 (オープン当初)

5

[うるおい館]



シャトルバス発車

オープンして間もなく、利用者の中に高齢の方が多くことから、駐車場の完備だけでは不十分と、「うるおいシャトルバス」の運行を開始する。長野駅付近、日興商事前、うるおい館をつなぐ無料のシャトルバスは、平日は毎日運行している。一番早いバス(10時12分着)でうるおい館に到着し、夕方最終のバス(16時50分発)まで温泉とお食事をゆっくりお楽しみいただくお客様も多い。

[うるおい館]

カフェ・ベーカリーがオープン

6

平日は高齢のお客様が多くを占める一方で、休日を中心に小さなお子様連れのご夫婦や、若い女性・男性の利用が増えていった。「若い世代の方にも気軽にご利用いただけるように」と、1階の入り口近くに喫茶コーナーを兼ねたベーカリー「つましなカフェ」をオープン。焼きたてパンの芳ばしい香りが広がる店内はゆったりくつろぐことができ、フレッシュジュースやぶどう酢ドリンクなど、湯上がりにぴったりのヘルシーなドリンクも人気。



3

【ホテル日興】

「和室」の誕生



2

【ホテル日興】

スポーツ選手の宿泊

平成10年の長野オリンピック開催時、ホテル内はIOC関係者や運営スタッフで溢れかえった。そして、オリンピック以降、ホテル日興にもうひとつの転機が訪れる。オリンピックの施設ではその後、各種スポーツ大会が頻繁に開かれるようになったため、スポーツ選手のホテルの利用が急増したのだ。スポーツ大会が開催される度に、学生から社会人までの参加選手が集い、スタッフも祈るような気持ちで選手たちの健闘を応援するようになった。



「大切な1日を支えるために。」

毎年10月末に、長野市でスピードスケートの全国大会があるんです。それに合わせて合宿で大勢の方が泊まっていけます。その間約1カ月、朝から晩まで共に過ごされるわけですから、お手伝いしている私たちも一緒に合宿しているような気分になります。自然と、「なんとかいい成績を取れますように。頑張つて！」とサービスにも力が入るわけです。中学、高校、大学とスピードスケートをやられていた常連様で、社会人になつてからも来てくださる方がいるのですが、その弟さんと妹さんも同じ競技をやられていて、ご兄弟皆さんがお客様です。お兄さんは県南部の企業に就職されて出張で利用して下さるんです。「うちの商品、使ってくださいよ」なんて世間話をしたり。10年にもわたつて最前にしていただいて、本

当にありがたいなあと思います。スポーツ合宿のお客様にはいつも食事を喜んでいただきますね。アスリートの方にはしっかりと栄養をとっていただきたいですから、ボリュームはもちろん、何泊されなくても飽きずに美味しく食べていただけるような工夫を心がけています。「美味しい、美味しい」と食べてくださるのがなによりです。たまに「今年のカレーは甘いね」なんて言われたり（笑）。通常メニューはうどんのところ、「やっぱりご飯がいい」と言われたら、「じゃあなんとかしませようか」となるべく対応させていただきました。そういう融通のきくところは、他のビジネスホテルにはないと思います。

あつて座るので、何時間も一緒にお話させていただくんです。そのおかげで信頼していただけるのか「今度また竹内さんお願い」と、次のご縁をいただいています。これからも、お客様に親しみをもつて利用していただけるよう、家庭的な雰囲気と歴史あるホテルの品格を大切に「おもてなし」に心を配りたいと思います。



株式会社日興商事
ホテル日興支配人
竹内一人



「365日、憩いの場として。」

うるおい館をひと言で表すと、地域の皆様の「憩いの場」です。平日は高齢の方がお仲間同士で集まる事が多く、休日には三世代でゆつくり過ごされるご家族の姿をよくお見かけします。

日帰り温泉のご利用では、開館と同時に来られてゆつくり温泉に浸かり、お食事をされてまた温泉と、夕方までのんびりお過ごしいただいています。常連のお客様はご高齢の方が多く、旬の美味しい食べ物のご話題に参加させていただいているんですよ。さまざまな経験を重ねてきたお客様との会話はとても楽しく、お話を聞きながら人生の勉強をさせていただいていると思います。お客様が、「デイサービスなんかに行くより楽しい」と言ってくださるのが、なによりうれしいですね。

とてもありがたいことに、オープン当初から、365日欠かさず来てくださるお客様もいらっしゃいます。少しずつお話をさせていただくようになって、ある時お年を伺ったら90歳を超えていらっしゃるとのこと。とてもお元気で、ご自宅からバスを乗り継いで来てくださることもあるんです。私が在館中にお会いすると、「会いにきたよー」「待つてましたよー」と、お互いに思わずハグしてしまふ(笑)。いつもさりげなく素敵なお召し物を着ていらして、女性スタッフとおしゃべりに花を咲かせることも多いです。

宿泊のお客様は県外の方がメインですが、季節ごとに足をお運びいただく方もいらっしゃいます。休日ともなると、日帰り・宿泊合わせて1000人ものお客様が来てくださいますが、開業時から

のスタッフが多いため、お客様おひとりおひとりの個性に合わせたコミュニケーションを心がけています。最近では、小さなお子様連れのご夫婦や若い女性のご来館も増えております。常連のお客様との関係を大切にしながら、若いお客様向けのご提案も充実させていき、皆様に安心してお過ごしいただける場をさらに進化させていきたいと思っています。



株式会社日興商事
裾花峡天然温泉宿 うるおい館
支配人
熊倉謙一郎

[子会社]

株式会社エーアイエム
 長野市七瀬南部 355
 ☎ 026-217-8822
 www.aim-bus.com/

株式会社フラワー
 ステージなごの
 長野市七瀬南部 333-16
 ☎ 026-217-0909
 www.flowerstage-nagano.net/

株式会社日興商事

長野市南長野妻科 962
 ☎ 026-234-5555 (代)
 www.nikko-shouji.com/

株式会社日本生活互助会

長野市南長野妻科 962
 ☎ 026-234-4188 (代)
 www.ns-gojokai.co.jp/



[各施設・事業のご案内]

ホテル日興
 長野市南千歳町 2-22-3
 ☎ 026-226-2200 ☎ 0120-15-2950
 www.hotel-nikko.net/

裾花峡天然温泉宿
 うるおい館
 長野市南長野妻科 98
 ☎ 026-237-4126 www.uruoikan.com/

テラスグランツ
 長野市南長野妻科 88
 ☎ 026-234-4122 ☎ 0120-044-125
 www.terrace-glanz.com/

中央安楽院
 長野市七瀬 375
 ☎ 026-223-4444 ☎ 0120-55-0983
 www.anrakuin.net/

南安楽院
 長野市青木島 3-5-8
 ☎ 026-284-4444 ☎ 0120-44-0983

桐原安楽院
 長野市桐原 1-22-20
 ☎ 026-252-4444

朝陽安楽院
 長野市北尾張部 168-1
 ☎ 026-244-4444

須高安楽院
 須坂市北原町 558
 ☎ 026-242-4444 ☎ 0120-373-594

中野安楽院
 中野市西条 1198
 ☎ 0269-22-4444

ライフステージ
 みちしるべ
 長野市南長野妻科 962
 ☎ 026-231-5522 ☎ 0120-500-656
 www.michishirube.biz/

うるおい友の会
 長野市南長野妻科 962
 ☎ 026-234-5111 www.uru-tomo.com/

50th ← 40th ← 30th ← 20th ← 10th

昭和37年(1962)	株式会社日興出版社を設立。
昭和38年(1963)	株式会社日興商事を設立し、出版部門(株式会社日興出版社)・不動産部門・建設部門(建設業登録長野県知事(ル)第998号)・車両部門を設ける。
昭和40年(1965)	理容部門創設。生活保護家庭・母子家庭・医療保護家庭を対象に無料理髪を開始。
昭和41年(1966)	長野県・群馬県・埼玉県・栃木県・新潟県の住宅地図著作権を登録。高崎市に群馬支店(出版部門)開設。
昭和42年(1967)	埼玉支店・前橋営業所・松本営業所(いずれも出版部門)を開設。
昭和43年(1968)	東京都江戸川区に支店(不動産部門・建設部門)開設。宅地建物取引業登録(建設大臣(一)第397号)。
昭和44年(1969)	日本鋼管直系会社エヌ・ケー・プレハブ株式会社長野県総代理店となる。
昭和45年(1970)	株式会社日興建設を分社して設立。
昭和46年(1971)	株式会社東交出版社(新潟市)を合併。
昭和47年(1972)	日本鋼管直系会社エヌ・ケー・プレハブ株式会社新潟県総代理店となり、新潟市に支店を開設。
昭和48年(1973)	長岡市・青森市・山形市・郡山市・函館市に(出版部門)支店開設。福島市に出版部門営業所を開設。
昭和49年(1974)	富山市・金沢市に(出版部門)支店開設。八戸市に出版部門営業所を開設。
昭和50年(1975)	株式会社日興印刷を分社して設立。
昭和51年(1976)	東京都江戸川支店を東京都千代田区に移転し、千代田支店を開設。全国住宅地図総販売元、住宅地図販売センターを併設。
昭和52年(1977)	長野市南隣の長野労働金庫本社屋跡を購入し、株式会社日興商事本社日興商事グループの総本社とする。
昭和53年(1978)	ゼンリン出版社と東京都住宅地図一括販売契約を締結し、同販売権を取得。
昭和54年(1979)	株式会社北海道中央観光社と協議し、北海道全域の住宅地図を出版。旭川支店、室蘭営業所(いずれも出版部門)を開設。
昭和55年(1980)	有限会社日野定造花店を吸収合併し、慶弔部門を立ち上げる。
昭和56年(1981)	株式会社日興商事は、長野県生活互助会部門を設立。
昭和57年(1982)	株式会社日興商事は、長野市南千歳にホテル日興を開設。
昭和58年(1983)	株式会社日興商事は、長野市妻科に専門結婚式場の百景苑を開設。
昭和59年(1984)	慶弔部門を独立させ、株式会社長野県生活互助会を設立。
昭和60年(1985)	株式会社日興商事は、千代田区平河町に営業所を開設。建物管理保証業務を開始。
昭和61年(1986)	株式会社日興商事は、豊橋運送事業の免許取得(新陸自賃(霊)第100号)。
昭和62年(1987)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して、県下随一のジョイベル教会を設立。
昭和63年(1988)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して、県下随一のジョイベル教会を設立。
昭和64年(1989)	長野市妻科に衣装大展示センターを開設。
昭和65年(1990)	株式会社協立化学と提携し、工業薬品類の販売契約を締結。
昭和66年(1991)	株式会社日興商事は、韓国・龍山区(ソウル特別市)に支店を開設。現地法人韓国日興商事株式会社を設立し、同国商工資源部長官より貿易輸出入業の許可(第53001243号)を取得。
昭和67年(1992)	株式会社日興商事は、長野市七瀬に葬祭セレモニーホール中央安楽院を開設。
昭和68年(1993)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和69年(1994)	株式会社日興商事は、長野市妻科の県庁隣に総本社日興商事ビルを建築。
昭和70年(1995)	株式会社日興商事は、須坂市に葬祭セレモニーホール須高安楽院を開設。
昭和71年(1996)	株式会社日興商事は、長野市桐原に葬祭セレモニーホール朝陽安楽院を開設。
昭和72年(1997)	株式会社日興商事は、中野市に葬祭セレモニーホール北信安楽院(現・中野安楽院)を開設。
昭和73年(1998)	株式会社日興商事は、長野市妻科に棉花峡天然温泉宿するおい館を開設。
昭和74年(1999)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和75年(2000)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和76年(2001)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和77年(2002)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和78年(2003)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和79年(2004)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和80年(2005)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和81年(2006)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和82年(2007)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和83年(2008)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和84年(2009)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和85年(2010)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和86年(2011)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和87年(2012)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和88年(2013)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和89年(2014)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和90年(2015)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和91年(2016)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和92年(2017)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和93年(2018)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和94年(2019)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和95年(2020)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和96年(2021)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和97年(2022)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和98年(2023)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。
昭和99年(2024)	株式会社日興商事は、長野市妻科の百景苑に隣接して披露宴会場・樹樹ホールを開設。

2014(平成26)年春、

貸切型家族葬ホール「紫苑」を

長野市・須坂市に開業いたします。

長野県初の葬祭式場を設立して30年。

いま改めて家族のあり方に向き合ったNIKKOグループが、

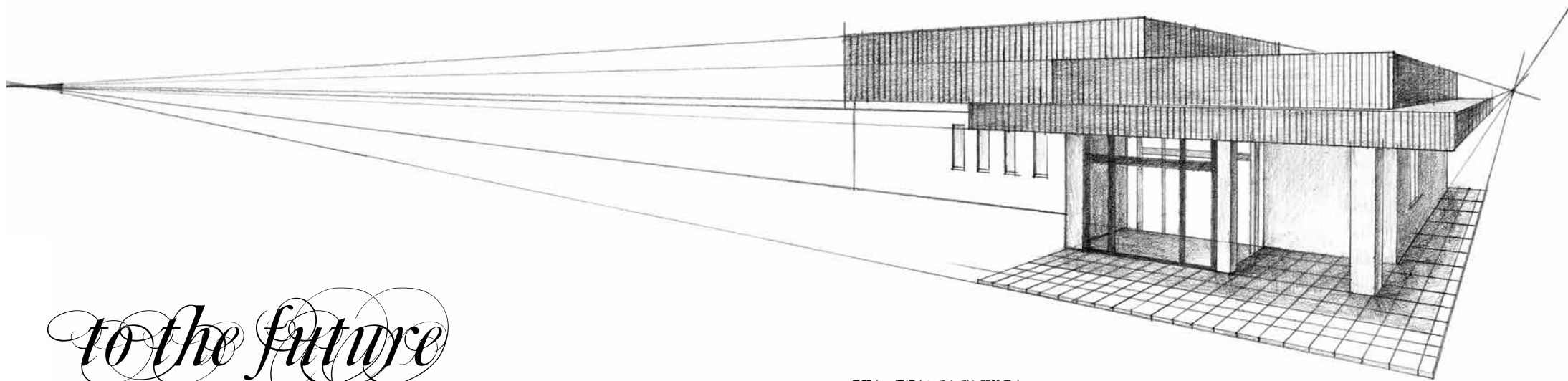
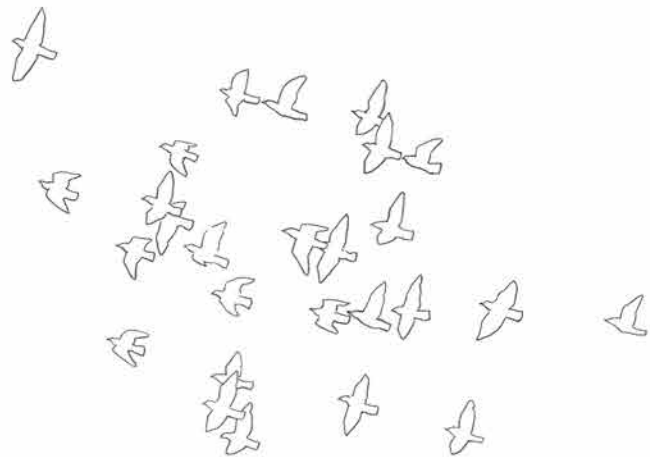
「未来へのこたえ」を形にしました。

お見送りするご家族が心おきなく故人に寄り添い、

悔いのないお別れができるように——。

家族の歴史を刻み、未来に手伝いを

ここ「紫苑」から新たに始めていきます。



to the future

—NIKKOの未来図—

これからの家族を見つめて

長野市・須坂市にそれぞれ開設予定の「紫苑」。通夜からお葬式までご家族がゆっくりとお休みいただけるスペースを完備。ご自宅のようにお過ごしいただける空間は、全館バリアフリー仕様でご高齢の方にも安心してご利用いただけます